

第3部： Forum-On : Fforwm- Ymlaen

研究生活の側面——北ウェールズの運河を中心にして——

帝塚山大学経済学部 梶本元信

One Aspect of my Studies; Canals in North Wales

Motonobu Kajimoto

Abstract: One area of my academic study is the relationship between transport facilities and regional economic development in the early stages of the Industrialization Age. In one case study I examined the Ellesmere Canal and discussed why it was conceived and constructed and to what extent the canal contributed to the regional economy. Another aspect of my studies is the reconstruction of canals after the Second World War. Due to competition with railways and automobiles, most canals were destroyed after the end of the Second World War, but some of them survived to be reconstructed by canal enthusiasts. The Welsh section of the Ellesmere Canal survived and was renamed the Llangollen Canal. It is now one of the most beautiful canals in Britain.

イギリス経済史の中でウェールズに関する研究はわが国では概して等閑視されてきた。というのも、ウェールズ、とりわけ北ウェールズは、決してイギリス工業化の中心地域ではなかったし、ロンドンを中心とする南東部のように、消費や金融の中心でもなかった。北ウェールズは人口まばらな辺境の山岳地域という印象が強く、わが国経済史家の目から見ると、幾分魅力に欠けた地域であったかもしれない。しかし、近年の歴史研究の傾向、とりわけ産業遺産への関心の高まりの中で、北ウェールズは極めて注目すべき地域になってきている。風光明媚な海岸線やスノードニアの山岳地帯の景観、世界遺産に登録されている中世以来の古城に加えて、数多くのナローゲージ鉄道やポントカサルテ水道橋に代表されるユニークな運河施設など、北ウェールズには産業革命時代以後に建設された数多くの産業遺産が保存されている。

本報告では、北ウェールズの運河、とりわけエルズミア運河（第二次世界大戦中閉鎖されていたが、後にスランゴスレン運河として再開）に焦点をあて、

この運河と地域経済の関係を考察した。産業革命時代の北ウェールズの主要産業（例えば、炭鉱業、製鉄業、スレート産業、毛織物工業など）の発展や衰退は運河や道路、鉄道などの交通インフラと密接に関連していたといえよう。エルズミア運河やその延長線のモンゴメリーシャー運河は、チェスター運河をはじめとするイングランド西部の運河や沿岸海運と連絡して、ランカシャーやミッドランド地方などの主要工業地域と連絡するために建設され、北ウェールズ経済に不可欠の役割を演じたのである。また、本報告の後半は第二次世界大戦後の運河再建運動に注目した。19世紀末から20世紀にかけての主要産業の衰退とともに、交通手段としての運河も衰退していった。確かに第二次世界大戦後になると、交通手段としての運河での輸送は、ますます鉄道や自動車輸送に取って代われ、北ウェールズの運河も例外ではなかった。しかし他方で、交通手段以外に運河がもつ多様な価値が新たに注目されるようになった。運河愛好者たちの熱意と尽力によって、今や給水、娯楽用クルージング、釣魚、環境保全、あるいは産業遺産といったアメニティ上の価値が注目されるようになった。とりわけ風光明媚な田園地帯を通過する北ウェールズの運河は、単に地方の人々ばかりでなく、全国の運河愛好家の注目の的となった。

さて、イギリスの運河は主として2回にわたるブーム期に建設された。すなわち、第1次ブーム期(1760年代)にはブリッジウォーター運河、トレント&マーゼー運河、フォース=クライド運河などの幹線運河が建設された。1790年代前半に生じた第2次ブーム期(いわゆる運河熱時代)には、50以上の運河法案が通過した。この時期には、グラモーガンシャー運河やモンマスシャー運河をはじめとする南ウェールズの主要運河や、本報告で取りあげたエルズミア運河やモンゴメリーシャー運河など、北ウェールズの運河も建設された。

エルズミア運河の建設の主要目的はマーゼー川、ディー川、セヴァン川を連絡し、地域産業の発展を促進することであり、運河建設を認可する法律は1793年4月30日に制定された。ウィリアム・ジェソップやトマス・テルフォードといったイギリスを代表する技師がこの運河の建設に携わっている。そしてディー川に架かるポントカサルテ水道橋は彼らが後世に残した傑作であり、今日でも北ウェールズを訪れる人々の驚嘆の的となっている。しかし、このことは運河建設が順調であったことを意味するものではなかった。当初計画されていた運河路線の建設は英仏戦争に伴う物価の高騰や資金不足によって中断され、3つの河川を連絡するという当初の計画は実現しなかったこの運河はシュルーズベリーには到達せず、レクサム周辺の鉱工業地帯とは ترامロードで連絡されることとなった。

それにもかかわらず、エルズミア運河(1808年開通)とその延長線であるモ